

パーソナル山行「加西アルプス」お申込みの皆様へ

この度は、2月17日開催のパーソナル山行「加西アルプス」にお申込みいただきありがとうございます。当日、安全に楽しんでいただけるよう、いくつか事前準備のお願いと諸連絡がございますのでご確認ください。どうぞよろしくお願いたします。

【事前準備1】加西アルプスへの理解を深めておこう！

① 加西アルプスってどこにあるの？

兵庫県の中南部・東播磨のほぼ中心に位置する加西市にあり、古法華自然公園の中にあります。12月に歩いた「小野アルプス」は、お隣さんになります。



② 加西アルプスってどんな山？

駅至近で、国指定文化財の石仏で有名な古法華寺を中心として、石切り場のあった「笠松山(244m)」と、古城跡の「善防山(251m)」の2座を擁する岩山で、それぞれの山頂からは、趣の違う360度の景色が楽しめます。また手軽に楽しめる里山として、地域の方の憩いの場としても愛されています。

③ なぜ「アルプス」なの？

岩稜の連なりがアルペンの風貌を備えていて、「笠松山(244m)」と「善防山(251m)」2座の縦走ルートは吊り橋を始め、鎖場が点在し、冒険心と共に体力や経験に応じてあらゆるコースが設定できる特徴ある山です。



④ 加西アルプスの成り立ちは？

小野アルプスと同様約1億年～6600年万年前(後期白亜紀)の火山活動によって、地下深くから流れ出たマグマが冷えた流紋岩と、火砕流による火山灰が堆積した凝灰岩から成り立っています。善防山は主に流紋岩系、笠松山は主に凝灰岩系(正確には溶結軽石凝灰岩)と種類の違う岩石が隣り合っており、軽石を含む笠松山は浸食が激しいために急峻で、比較的固い岩盤の善防山と山容を分けています。歩いていても岩の違いが判って面白いですよ。

⑤ 加西アルプスでどんな岩が見られるの？



「笠松山」は、「播磨に石造文化をひらいた長石 (おさいし)」という溶結軽石凝灰が有名です。石を彫ると、中がピンク色をしています(左写真)。これは、長石に含まれていた酸化鉄が酸化したためで、普通は石の表面から風化して酸化していくのですが、軽石凝灰岩となったあと熱水がしみ込んだことによって内部から酸化したものとみられています。(写真は石切り

場の工房付近にあったオブジェ)

また、この長石で彫ったお地蔵さんや石仏の数々が点在していて、私たちの気持ちを和ませてくれます。



「善防山」は広い城跡がある山頂付近が火山礫凝灰岩、その山頂を囲むように流紋岩が広がっています。山頂に向かう途中に緑色をした凝灰岩(右写真)を観ることができます。



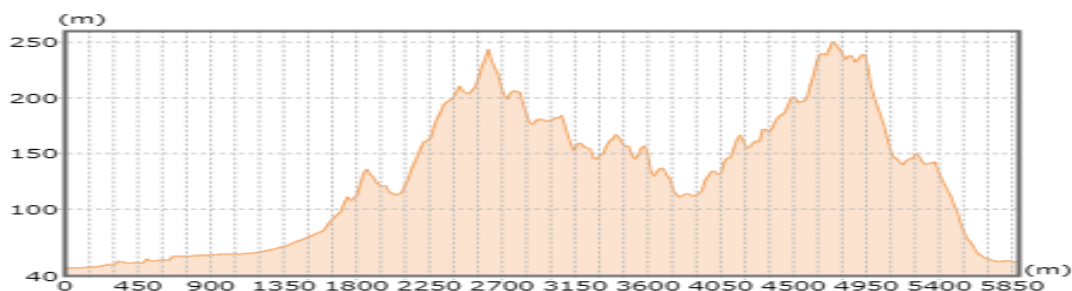
また、善防山登山口に下りる途中にある流紋岩群(左写真)は自破碎構造という波打つような形をしていて、所々赤い斑点があるのは、小野アルプスの紅山と同じダイダイゴケによるものです。



※⑤項のアドバイス:橋元正彦氏(「兵庫の山々、山頂の岩石(WEB)」管理人、「石と地層と地形を楽しむはりま山歩き(神戸新聞総合出版刊)」著者 <https://www.2u.biglobe.ne.jp/~HASSHI/yama.htm>)

ました。しかし、どのようにアップダウンするのかイメージできるでしょうか。中には公園を歩くようなイメージの方がおられるかもしれませんね。

ハイキングマップでも、よく見れば等高線という、山を同じ高さで輪切りにした線が薄く引かれているのがわかります。登山道のアップダウンは、この等高線を読み解くことでイメージすることができます。

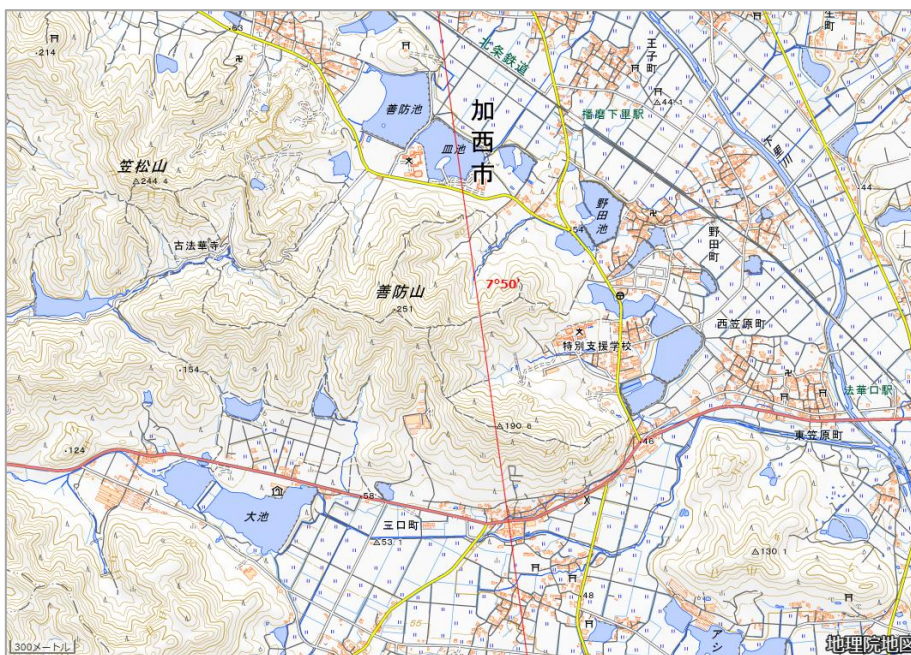


上のグラフは、今回歩く道（「播磨下里駅」から「善防登山口」）の断面図（真横から見た図）です。わかりやすいように極端に表現していますが、これだけアップダウンが繰り返されるのです。山頂の数と合わないのも、ちょっと驚かれたかもしれませんね。

⑨ 国土地理院地図を見てみよう（別途資料参照）

国土地理院地図とは、日本の公的機関が調査し発行している地図で、様々な地図はこの国土地理院の地図を元にして作られています。

読図とは、この地図から様々な地形の情報を得て、山行計画を立てたり、道迷いや滑落などの遭難防止に役立っています。



スマホを使ってGPSを活用している方は多いと思いますが、つい地図を平面的に、また部分的（局所として）に捉えてしまい、山の特徴を地形として捉えるには不向きです。

里山だと思って軽装できたら、じつは崖のようなところや岩稜帯で怖くて歩けない！アップダウンが少ないと思って距離を伸ばしたら体力不足に陥った!!などということがないよう、[国土地理院地図](#)や[山と高原地図](#)などの登山地図にも親しんでおき、GPSと併せて楽しく安全な山行に役立てましょう。

尚、同送した別途資料か、[国土地理院地図（加西アルプス方面）](#)の地図をご覧ください。また、[地理院地図の使い方](#)に詳しい解説が掲載されていますので一度試してみてもいいでしょう。

⑩ 国土地理院地図にルートを書き込んでみよう。

[読図](#)のできる方は、[国土地理院地図（加西アルプス方面）](#)にルートを書き込んでみましょう。但し、必ずしもハイキングルートが[国土地理院地図](#)に正しく反映されているとは限りません。その際は、地形の特徴（[谷と尾根](#)のどこを通るか、また川や池の位置など）を観察し、ルートを想像しましょう。また、各山頂から先に向かう[方位](#)、山頂付近の地形の特徴、ルート上で進む向きが変わる地点と[方位](#)なども調べておきましょう。（[読図](#)のできる方だけで結構ですよ！）

⑪ できるだけ自分の力で山行を想像してみよう。

加西アルプスに限らず、色々な方の山行記録がネットなどで手軽に確認できます。それを活用しご自身の山行に役立てることは構いませんが、できあがった記録をそのまま参考にするのではなく、同じネットを活用するのでも個々の情報を積み上げて、自分の力で山行を想像してみましょう。山に対する造詣が深まり、今まで以上に湧いた愛着は、きっとあなたの安全登山に繋がります。

【諸連絡とお願い】

① 「4000名山踏破者・渡辺正美氏が紹介する近畿10名山」について

この山行企画は、やまゆき会所属の渡辺正美氏が、思い出に残る山、歩いてほしい山として、近畿地方で推薦された山を愛でる山行です。ハイキングを通じて自然に親しみながら、その山に造詣を深め、今までとは違った視点で歩いてみようという主旨で始まりました。それぞれ、色々なこだわりを持って参加いただければと思います。（参考）<https://sangaku-osaka.com/information/9078/>

尚、やまゆき会さんとの合同開催となります。今回は、古法華寺以降は時間やルートをずらし、大人数が一緒にならないよう配慮しながら歩きますが、万一すれ違う際などは譲り合ってください、お互い楽しい参考になるようご協力ください。

② 今回のコース全般について

全般に初級コースを歩きますが、一部くさり場のある急坂や、岩が風化したザレた場所を通過します。「怖い」と思った方は、遠慮なく早めにお申し出ください。

また、できるだけ先頭の歩くルートに沿って歩いてください。

尚、笠松山山頂の展望台は崩落の危険があり立ち入りができなくなっています。山頂にはお昼ごろ登頂予定ですが、狭く他にハイカーがいると混雑して危険ですので、折り返しすぐに下山し、トイレのある古法華寺で昼食を取ります。それまでの間は行動食を摂るなり工夫ください。

③ 集合場所について

「播磨下里駅」で一旦点呼しますが、そのあとは各自「善防公民館」のトイレ前に移動してください。参加費の徴収はそこで行います。

また、自家用車などで善防公民館に直接お越しいただいても結構です。

④ 持ち物について（雨具は⑦項、救急セットについては⑧項をご覧ください）

「**地図**」はハイキングマップでも、国土地理院地図でも構いませんが、必ずプリントしてお持ちください。立派なマップケースにいれなくても、100円ショップで販売しているクリアポケットに入れれば多少の雨でも大丈夫です。

「**コンパス**」「**笛**」はお持ちの方だけで結構です。

「**レスキューシート**」は頭から肩が隠れるより少し大きいレジャーシートで構いません。

「**メタ**」とはエスビットという名称で販売しているスティック状の形態固形燃料で、緊急時に暖を取るのに使用しますが、防水マッチと併せてお持ちでない方はなくても構いません。

⑤ 今回のパーティ編成について

パーティ編成は、実施直前の計画書送付時に発表します。但し、次のことにはご注意ください。

- ・ 登山道では横に並んで歩かない
- ・ 岩稜帯ではルートを外さない
- ・ 一旦歩きだしたら前の人を追い越さない

また、下りで滑りやすい箇所がいくつかあります。その時は前の人に無理について早くいこうとせず、しっかり地に足をつけてゆっくり歩きましょう。

その際後ろの人は少し間隔をあけて下りましょう。

⑥ トイレについて

スタッフ宛お知らせください。

また、皆さんが撮られた写真で、許諾していない方が写りこんだ写真を個人の SNS などに使用することはできません。可能性がある場合はその方に一声おかけし、ご確認の上掲載ください。

【今後のご案内について】

- ご質問などございましたら、遠慮なくお問い合わせください。
- リンクはすべて外部サイトです。掲載内容については、発行者に直接お問い合わせください。
- 今後、この内容について修正や追加があった際は、速やかに皆様にご報告いたします。また山行計画書は2月13日頃メールにてご案内しますので、それまで暫らくお待ちください。では、当日お会いできることを楽しみにしております。



パーソナル委員会 佐伯典昭
noriaki.sanei@gmail.com